

Daniels, P. T. & W. Bright (eds.) (1996), *The World's Writing Systems* (Oxford)

Labat, R. (1988⁶), *Manuel d'épigraphie akkadienne* (Paris)

Soden, W. von & W. Röllig (1991⁴), *Das Akkadische Syllabar* (Roma)

Walker, C. B. F. (1987), *Cuneiform* (London; 大城光正訳『楔形文字』学芸書林, 1995)

前田徹ほか (2000), 『歴史学の現在 古代オリエント』(山川出版社)

【参照】^{くさびがた} 楔形文字, 古代オリエントの文字, シュメール文字, パピロニア文字, アッシリア文字, エブラ文字, ヒッタイト文字

(池田 潤)

^{くさびがた} アッカド楔形文字 英 Akkadian cuneiform = アッカド文字.

アッサム文字 英 Assamese script

アッサム文字は、インド共和国の東北部に位置するアッサム州の大多数の住民アッサム人(1991年現在で約2241万人)によって用いられる文字で、左から右方向へと水平に書き綴られる。

【系統・歴史】 西暦4~6世紀にブラーフミー文字から発達したグプタ(Gupta)文字は、さらに変化して西暦7~9世紀にはナーガリー(Nāgarī)文字となり、その東方スタイル(クティラ変形と呼ばれる、シッドマトリカー文字)から古代ベンガル文字を経て、現在のアッサム文字の祖形が誕生したと考えられる。アッサム文字の最古の例は、西暦6世紀のプティヴァルマン(Bhutivarman)王の銅板認可書に現われるが、その後次第に形を変化させ、最終的に現在のアッサム文字の形態をとるに至るのは、西暦12~13世紀のことである。大部分の碑文には、ブラーフミー文字とデーヴァナーガリー文字がアッサム文字とともに刻されているが、シャカ暦1127年(西暦1205年)北ゴーハティーのカーナーイヴァラシー(Kānāivaraśī)石碑に刻まれた碑文にはアッサム文字だけが使用され、しかも、ほぼ今日のアッサム文字の形態をとっている点で、注目すべき碑文といえよう。

【文字組織】 アッサム文字は、他のインド・アーリア諸語の文字と同様、原則的には音節文字であるが、

表1 単独母音文字

অ অ' আ ই ঙ উ
a[ɔ] a'[ɔ] ā[a] i[i] ī[i] u[u]

ঊ ঋ এ ঐ ও ঔ
ū[u] ṛ[ri] e[e, ε] ai[ɔi] o[ɔ] au[ɔu]

母音文字には、単独形式と、子音と結合したときの付加形式との2つがあり、子音文字も、単独形式と、他の子音と結合したときにとる付加形式の2つをもつ。ベンガル文字 とほとんど同じといってよく、わずかに母音[ɔ]を示す付加記号と子音[r]と[w]を示す形が異なるだけである。

以下では、文字列とそれぞれのローマ字転写、および、IPAによる音価を示すこととする。

1) 単独母音文字(表1) 伝統的な単独母音文字は12あるが、現代語では[i]と[u]の長短の区別はなくなっており、ঋは[ri]と発音される。

2) 付加母音記号(表2) 11の付加母音記号のうち、a'は子音の右肩に、āとīは右側に、iとeとaiは左側に、uとūとṛは下に、oとauは左右両側に付加する。ただし、a[ɔ]は単独子音文字そのものに含まれると考えられており、付加記号はとくにない。

3) 単独子音文字(表3) 子音の単独文字は40あるが、異文字でありながら同じ音価をもつものが多い。ただし、アッサム文字は本来音節文字なので、いかなる単独文字も「子音+母音」という音価を示す。したがって、特定の付加母音記号を伴わない子音文字は、子音にa[ɔ]が結合した音節音を示すものとなる。もし、子音のみの音価を示そうとする場合は、単独文字の足の部分に、(ホロント=子音で終わる)という記号を付け加えなければならない(ক্ k[k], খ্ kh[k^h], গ্ g[g], ঘ্ gh[g^h], ঙ্ ṅ[ŋ]). また、ত্ t[t], ণ্ ṇ[ɳ], হ্ h[h], ি ি[̃]の4文字は、音節末のみに現われる文字で、子音のみの音価を示す。

なお、これら単独子音文字に母音付加記号が組み合わさった文字例は、表4のようになる。

ただし、この中には母音付加記号がつくことによって字形が変わり、特別な文字形となるものがある(表5)。

表2 付加母音記号

অ' (') আ(া, া) ই(ি) ঙ(ি) ঊ(ু) উ(ূ) ঋ(ৃ)
a' ā i ī u ū ṛ
এ(ে, ষ) ঐ(ৈ, ়) ও(ো, ়) ঔ(ৌ, ়)
e ai o au